



SHINAGAWA WaterSide Map

# しながわの水辺 運河マップ



天王洲運河～目黒川～京浜運河～  
芝浦運河～芝浦西運河～高浜運河

## 目黒川に架かる橋

目黒川には数多くの橋と鉄橋が架かっています。橋の竣工年は様々でそれによりトラス橋やアーチ橋等、色々な形式の橋を見る事ができます。橋にスポットをあてた散策もオススメです。

**鎮守橋**  
南品川寄りの荏原神社氏子の拠出によって架けられた橋。南品川の鎮守、荏原神社にちなみ名付けられました。

**居木橋** 橋名の起源は古く、名の由来は橋がゆらゆらと動く様からゆるぎ(震動の意)ばしとされたと言われています。

**森永橋** 橋名はいつ頃つけられたか不明、森永製菓工場が付近にあった事により名付けられました。なお工場は大正時代に移転。

**御成橋** 別名、御成野橋。徳川将軍家が鷹狩の際に橋を架けた事から名付けられたと言われています。

**ふれあいK字橋** 歩行者専用橋。橋を上から見るとアルファベットのKの字に見える事から名付けられました。

**市場橋** 中央卸売市場荏原分場の入口に架した橋。市場移転後は目黒川の水を貯める地下調整池が設置されています。

**太鼓橋** 1769年(明和6年)に完成。建設された当時は珍しい太鼓の胴のようなアーチ型の石橋でしたが、今ではその名が伝わるのみです。

**山本橋**  
**御成橋**  
**鈴懸歩道橋**  
**小関橋**  
**森永橋**  
**居木橋**  
**三嶽橋**  
**要津橋**  
**東海橋**  
**荏川橋**  
**鎮守橋**  
**品川橋**  
**新品川橋**  
**洲崎橋**  
**昭和橋**  
**天王洲へ**

池尻大橋より  
大橋  
常盤橋  
万代橋  
氷川橋  
東山橋  
目黒橋  
中の橋  
南部橋  
柳橋  
千歳橋  
天神橋  
緑橋  
朝日橋  
宿山橋  
桜橋  
別所橋  
日の出橋  
宝来橋  
自樹橋  
田楽橋  
なかめ公園橋  
中里橋  
田道橋  
ふれあい橋  
目黒新橋  
太鼓橋  
竜の甲橋  
市場橋  
谷山橋  
本村橋  
五反田大橋  
大崎橋  
ふれあいK字橋  
山本橋  
御成橋  
鈴懸歩道橋  
小関橋  
森永橋  
居木橋  
三嶽橋  
要津橋  
東海橋  
荏川橋  
鎮守橋  
品川橋  
新品川橋  
洲崎橋  
昭和橋  
天王洲へ



**12 目黒天空庭園**  
目黒天空庭園は、首都高速道路の大橋ジャンクションの屋上を緑化した庭園。目黒区の区立公園として整備されています。

**11 西郷山公園**  
公園名の由来はこの土地が旧西郷邸(西郷隆盛の弟で明治期の政治家・軍人であった西郷従道(じゅうどう)の敷地)の北東部分にあたり、付近の人々が「西郷山」という通称で親しまれていたところから決まりました。台地の端の斜面を利用してつくられた公園で、斜面には20メートルの落差をもつ人工の滝が作られているほか、ゆるやかな坂道の園路や展望台が設けられ、冬のよく晴れた日には遠くの富士山も望めます。

一般社団法人しながわ観光協会  
SHINAGAWA TOURISM ASSOCIATION  
☎03-5743-7642  
2019年8月発行  
https://shinagawa-kanko.or.jp/  
〒140-0014 品川区大井1-14-1 大井1丁目共同ビル1F  
【営業時間】午前9時30分～午後5時【休館日】日曜日・祝日・年末年始

**9 瀧泉寺**  
瀧泉寺、一般には目黒不動(目黒不動尊)の通称で呼ばれています。天台宗の寺院で山号は泰叡山。目黒不動、目白不動、目赤不動、目青不動、目黄不動の江戸五色不動の一つ。「目黒」の地名はこの目黒不動に由来します。

**8 ホテル雅叙園東京**  
昭和の筆管城とうたわれ、数々の縁を結んできた日本初の総合結婚式場。園内には、末広がりの扇、美りの絵、縁結びの紋やオブジェなど、縁起の良いモチーフが多数あります。

**東京都の南部 品川区とは…**  
東京都の南に位置する品川区。目黒川の河口付近は古くは「品川」とい、これが「品川」の起こりとされ、今から600年前の室町時代には、すでに太平洋の海運の港町が出来ていました。これが下地になり、江戸時代には五街道で最も交通量が多い、東海道第一の宿場町へと繁栄していきました。品川宿は、風光明媚な地として、四季折々に江戸市中から多くの人が訪れました。時は流れ、明治になり品川は、いち早く鉄道が敷設され、官営品川硝子製造所が設立されるなど近代工業の先駆けとなり、京浜工業地帯の発祥地として発展していきました。近年では、工場跡地などの再開発により新しい街がつかわれています。

**10 中目黒桜まつり**  
4月の第一日曜日  
合流点遊び場にて開催  
各種パフォーマンス、吹奏楽など  
主催 中目黒駅前商店街振興組合

**7 城南五山**  
城南五山(じょうなんござん)は、東京城南地区にある高台5カ所の総称。山手線の内側、目黒駅から品川駅にかけての地域にあり、古くから高級住宅街として知られる。御殿山(ごてんやま)、ハッ山(やつやま)、島津山(しまづやま)、池田山(いけだやま)、花房山(はなぶさやま)で構成され、それぞれは大名家屋敷や大名出身の邸宅がありました。明治に入って、財閥や実業家の邸宅に引き継がれました。

**2 カニ護岸**  
芝浦アイランド南護岸前の潮だまり(通称カニ護岸)は芝浦アイランドに設置されたテラス型護岸。水生生物にやさしい、近自然型護岸です。

**3 品川浦**  
かつて品川浦は豊富な水揚げを誇り、海苔の主要な産地でもありました。現在では舟だまりとなりつり船や屋形船が触先を並べ、釣り人や納涼に繰り出す人々ににぎわっています。

**6 五反田ふれあい水辺広場**  
目黒川の水辺空間を活かした公園「区立五反田ふれあい水辺広場」。広場内の「さくらてらす五反田」では地域のギャラリーやカフェが設置されています。また、例年11月～1月までオリジナルの桜色のLEDで彩ったイルミネーションが楽しめます。

**5 荏原神社の御神面神輿**  
海中渡御は、荏原神社例大祭最終日の御神事。天王洲から拾い上げられたと伝えられる素戔嗚尊の神面を神輿につけて海上を渡し、豊漁と豊作を祈ります。昔は神輿を海に担ぎ入れましたが、現在は目黒川より船に神輿を乗せ、港区のお台場海浜公園周辺まで渡ります。

**4 東海橋防災船着場**  
臨海部に位置し、豊富な水辺を持つ品川区。その特性を活かし、災害時の帰宅困難者や物資の輸送ルートとして水運や水辺を活用できるように計画された船着場。災害発生時だけでなく船着場を活用できるよう様々なイベントを開催いたします。

**歴史深い 目黒川とは…**  
目黒川の河口付近は古くは「品川」とい、江戸時代には、その上流の下目黒付近では「こりとり川」と呼ばれ、この川で身を清めてから目黒不動尊に詣でたことから名付けられたとされています。目黒川の起点は世田谷区三宿の東仲橋付近、北沢川と烏山川が合流して目黒川となり、天王洲より東京湾に注ぎます。また、目黒川は川幅が狭くかつ浅かったため、目黒川の歴史は氾濫の歴史とも言われています。氾濫に備えるため、川幅・川筋を変える大改修が行われ、蛇行していた流れが現在の直線の流れになりました。

### ① 芝浦水再生センター

昭和6年に稼働した東京で3番目に古い水再生センター。施設上部を港区立中央公園として開放されています。



### ④ 天王洲アイランド

江戸時代前期まで、このあたりは「洲崎」と呼ばれ、海中の土砂が堆積してできた「洲」でした。また、1751年(宝暦元年)に船人が牛頭天王(ごずんのう)の面をこの海域から引き上げたことから、「天王洲」の地名の由来となっています。また、アイランドは英語で「島」を意味する言葉で、この地がアメニティ豊かな景観に恵まれたウォーターフロントであるため、再開発整備された際に「天王洲アイランド」と名付けられました。



### ① 芝浦アイランド

東京湾岸の埋立地であり、元々は新三井製糖工場のほか、都電の車両工場と操車場、東京都下水道局ポンプ場、都営アパートなどが立地していました。2001年(平成13年)から実施された再開発事業により、超高層住宅群が建設され、「芝浦アイランド」と名付けられました。再開発地区は4つの街区から構成されています。地区全体では総戸数約4,000戸、人口約10,000人の街となっています。



### ⑤ 東京海洋大学～雲鷹丸

海洋の研究・教育に特化した唯一の国立大学です。2003年(平成15年)10月に、共に120年以上の歴史を持つ東京商船大学と東京水産大学が統合し開学。雲鷹丸は、漁業練習船および漁業調査船として使用され、3本マストの帆船です。1909年(明治42年)～20年間にわたり33回の航海を行うとともに、捕鯨実習をはじめ、漁具調査、学生実習、漁撈技術・漁具開発等に貢献。1998年(平成10年)12月11日に国の登録文化財として指定されました。



### ⑦ 目黒川水門

目黒川河口に接続する天王洲運河に設置された水門。図柄は一般公募により選ばれ、表には「しながわ鯨」、裏側には「海のともだち」という作品が描かれ、2008年に完成しました。



### ⑧ ザ・クルーズクラブ東京

東京湾を海から眺めながらのランチクルーズ、ディナークルーズができる。クルーザー「レディクリスタル」は「日本郵船」の飛鳥IIの姉妹船。コースやマナーのみかけるようなデザインの豪華クルーザー。



### ⑩ 大井競馬場

イルミネーション輝くナイト競馬「トゥインクルレース」を開催。馬とふれあえる催しも多く、家族でも楽しめます。



### ⑪ しながわ水族館

人気スポットとしては「東京湾に注ぐ川」・「クラゲたちの世界」・「世界の大河から」水槽、「アザラシ館」があります。また、海中散歩が味わえる「トンネル水槽」やイルカとアシカによるショーなども楽しめます。



### ⑫ 京浜運河

東京都港区田町付近より品川区、大田区、川崎市を経て横浜市鶴見区大黒埠頭まで続きます。



### 水害を防ぐ 東京湾の水門とは…

水門は、外郭堤防により仕切られた東京湾の外水域と内水域との間に設置され、高潮等で外水域の水位が高くなった場合に、水門を閉鎖して内水域の水位上昇を防いでいる。水門設備は、門扉・戸当り・開閉装置で構成されています。東京港には19基の水門があり、そのうち4基(古川水門、目の出水門、高浜水門、天王洲水門)が芝浦港南地区にあります。東京は、東京湾の最奥部に位置し、高潮の被害を極めて受けやすい地形となっています。東京の沿岸部は、過去には幾度も高潮等による水害にみまわれてきたが、高潮対策事業の推進により、台風や地震による水害に耐えられる街になりつつあります。東日本大震災の時に津波が起こった際、水門は締まり、東京湾水門内の船は、被害を免れました。



### ⑬ 大森ふるさとの浜辺公園

入江や干潟を持つ都内では初めての区立海浜公園です。かつての大森海岸を再現した浜辺で磯遊びを楽しんだり、桜やツツジに彩られた園内を散歩したり、浜風の薫るふるさとを満喫することができます。隣には、大森海苔のふるさと館があり、地元商店街との協力による売店があります。開園時間 午前5時30分から午後9時まで



### ⑯ 羽田可動橋

首都高羽田線のこの橋は、国内でも珍しい大型船が通るための旋回方式。1998年以降使用停止となっているが、撤去はされず現在も左右に開いた姿が見られます。



### ⑨ 東京モノレール

東京モノレール株式会社は1964年(昭和39年)9月17日に開業。2002年(平成14年)にJR東日本の傘下となりました。2014年に開業50周年を迎え、同年7月に新車両10000形が使用開始されました。



### ⑭ 京浜島つばさ公園

羽田空港を離発着する飛行機を間近に見ることができ、芝生広場ではバーベキューができます。



### ⑮ 東京都中央卸売市場 大田市場

水産物・青果物・花を取り扱う総合市場。特に青果部は施設規模、一日当たりの取扱量は国内最大。せしは水産物部が5時40分、青果部が6時50分、花き部は7時から始まる。見学自由時間は5時～15時、最寄り駅「東京モノレール 流通センター」より徒歩15分。



### 日本の玄関 東京国際空港とは…

東京国際空港、通称「羽田空港」。1931年8月25日に「東京飛行場」として開港。年間の航空機発着回数は378,914回(2012年)で航空旅客数も国内最大であり世界では4番目に旅客数の多い空港となります(2014年)。元は日本飛行大学がこの地に開校。飛行訓練施設が置かれました。関東大震災の時に、現在の羽田飛行場のサイズに拡張整備され、1930年逓信省航空局により飛行場用地として購入、日本初の国営民間航空専用空港として開港しました。

